

③第2期経営計画の推進に向けた取組み

取組み区分	◎新規 ○拡充 ・継続
-------	-------------------

※下線文字は経営コンサルと連携する取組み

基本方針	基本目標	戦略	令和7年度の取組み(R6以前からの継続含む)	令和8年度の取組み
1 救急医療、成育医療及びがん診療を柱に、高度で専門的な医療を提供します	救急医療 救命救急センターとして、鹿児島県の救急医療体制の充実に貢献します	① 救急医療機関との連携促進及び地域の救急医療体制の充実への貢献	○救急ドクターライン（#7000）の運用 ・救急・総合診療外来の設置 ・高度救急隊（ドクターカー）の運行 ・ドクターヘリの運航 ・他官庁との連携訓練実施（海上保安庁、市消防局） ・麻酔科の一部シフト制（夜勤）の運用 ・業務改善による救命救急センター待機時間の短縮 ・救急科におけるシフト制の運用 ・救急救命士の配置 ・院内災害訓練 ・救命救急センター充実段階評価S評価取得 ・充実段階評価の評価項目見直しへの対応	○救命救急センター業務体制強化(救急救命士2名増) ◎災害対策強化のための新たな衛星通信手段（スターリンク）の導入
		② 救命救急医療のさらなる高度化		
		③ 多様な救急疾患に対応できる診療体制の構築		
		④ 救急医療に携わる人材の確保・育成		
		⑤ 救命救急センター充実段階評価のS評価取得		
	成育医療 総合周産期母子医療センター・成育医療センターとして、一貫した医療を提供します	① MFICUの拡充と成育医療のさらなる高度化	・母体救急医療の充実 ・産婦人科、新生児内科におけるシフト制の運用 ・小児科の一部シフト制（夜勤）の運用 ・救急科との連携 ・新生児専用ドクターカー（こうのとりの号）の運行 ・県内周産期医療における、地域医療施設との連携強化	◎GCU等の新生児病床配分見直し検討
		② 産科・新生児・小児救急医療の24時間体制の充実		
		③ 地域医療機関との連携促進及び地域の成育医療システムの充実への貢献		
		④ 成育医療に携わる人材の確保・育成		
	がん診療 地域がん診療連携拠点病院に求められる医療ニーズに応じた高度で専門的な医療を提供します	① がん診療機能を集約したがんセンターの設置	・外来化学療法室の患者入室・ベッドコントロールのDX化 ・化学療法準備室の設置⇒作業効率の向上 ・バーコードによる患者情報連携システムの構築（外来化学療法室）⇒安全性の向上、時間短縮 ・がん患者管理指導料・緩和ケア診療加算取得の効率化 ・AYA世代（15歳～39歳）がん患者に対するサポート体制の構築	○リニアック（放射線治療装置）の機器更新によるがん診療の強化
		② がんの手術・化学療法等の高度化		
		③ あらゆるがんに対応できる診療体制の充実		
④ 緩和ケアなどがん患者に寄り添った包括的ながん診療体制の充実				
⑤ がん診療を行う地域の医療機関との連携の推進				
総合診療 総合病院として診療機能の充実に図ります	① 急性期病院として様々な疾患に対応できる総合診療体制の充実	・DPC特定病院群へ再指定（R6～R7） ・救急・総合診療外来の設置（再掲） ・令和6年度診療報酬改定に伴う在院日数の適正化 ・マイナ保険証利用による受付 ・手術室業務改善システム（オペラマスター）の活用 ◎手術室運用の効率化及び手術枠の増加 ・クリニカルパスの作成支援、評価体制の整備	◎令和8年度診療報酬改定に伴う在院日数の適正化 ◎診療報酬の算定強化を図る「診療報酬WG」の運用 ◎電子カルテシステムの更新（～9年度）	
	② 認知症ケアなど少子高齢化に伴いニーズが高まる高齢者医療の強化			
	③ 糖尿病や腎臓病など生活習慣病診療の充実			
	④ 増加する手術へ対応する手術部門の拡充			
	⑤ クリニカルパスを活用した在院日数の適正化			

基本方針	基本目標	戦略	令和7年度の取組み(R6以前からの継続含む)	令和8年度の取組み
2 患者や家族に寄り添い、安全で信頼される医療を提供します	患者目線に立った医療を提供するとともに、チーム医療による医療安全活動の活性化を図ります	① 患者満足度の向上 ② 臨床検査室認定（ISO 15189）の取得 ③ 医療事故（インシデント、アクシデント）の発生抑制 ④ ホームページ等の充実による情報発信力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 患者満足度調査の実施 入院セットの提供業務開始（希望者と業者との直接契約） ○スマートオリエンテーション対象部署の拡充 R7年度時点（見込）：14部署 拡充部署（一部）：小児科外来、消化器内科外来、外来化学療法部 委託による作成動画に加え、現場独自の内製動画も併用して運用中 初診予約の運用見直し（簡素化による時間縮減） 外来診療時間の拡充 待ち時間対策の実施（再来受付機・採血受付機の受付開始時間の変更） AI電話による初診予約受付の開始 臨床検査室認定（ISO 15189：2012）から（ISO 15189：2022）へのバージョン移行（R7.12月迄） 病院ホームページのリニューアル 	◎重篤な患者・患者家族の意思決定の支援強化（重症患者初期支援充実加算の算定推進）
3 地域医療機関との連携を進め、地域医療の充実に努めます	医療連携の強化により、高度急性期・急性期病院として地域のかかりつけ医との機能分化を図ります	① 初診紹介患者のWeb予約の拡充による登録医療機関の増 ② 紹介率・逆紹介率の向上 ③ 患者の入退院支援の充実 ④ かかりつけ医との連携促進	<ul style="list-style-type: none"> Web予約の拡充・推進 逆紹介の促進 CT、MRI、PET検査の電話予約開始 ○退院支援システム（CAREBOOK）参加病院の拡大（R7年12月時点：64医療機関） 救急ドクターライン（#7000）の設置（再掲） 救急・総合診療外来の設置（再掲） 病院広報・医療機関誌（パートナーシップ）の発行 病院訪問の実施・強化 地域医療連携講演会の開催 ◎地域連携アンケートの実施 他の医療機関との信頼関係構築（救急ドクターラインによる患者受け入れ・ホームページリニューアル） 	◎多職種で地域連携強化を図る「地域連携WG」の運用 ◎データに基づいた戦略的な医療機関訪問 ◎地域連携アンケート及び訪問ヒアリングによる課題把握及び院内共有
4 職員の教育、研修及び研究を奨励し、医療水準の向上に努めます	高い専門性を備え、地域医療に貢献する質の高い医療人の確保・育成に努めます	① 特定看護師や診療看護師等の人材育成 ② 専門研修プログラム及び資格取得支援の充実 ③ 大学院連携講座の充実	<ul style="list-style-type: none"> 新人看護研修内容の適宜見直し（前年度アンケートのフィードバック利用） ◎階層・職種を超えた対話を通じた部門連携・部下育成コーチングの実施 チューター制度の充実（R7年度：5名） 専門研修プログラムの実施⇒R7年度履修者数12名 特定行為研修の開講科目の拡充（6区分増加）⇒R7年度研修生数26名 ○職員向けeラーニングの受講科目の拡充（管理者向け） <ul style="list-style-type: none"> 専門資格業務手当の拡充（対象にアドバンス助産師、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、がん病態栄養専門管理栄養士、腎臓リハビリテーション指導士） R7年度教育研修補助実績見込み⇒医師部門13名、看護部門4名、医療技術部門3名 大学院連携セミナー実施（R7年度2回）⇒R7実績…受講生数8名 修士号取得者1名 	◎職員の経営参画意識の醸成や役割に基づいた人材育成を図る「人事戦略WG」の運用 ◎組織の求心力向上を目的とした組織開発支援 ○特定行為研修：R8年度研修生数13名（R7年度研修生26名）

基本方針	基本目標	戦略	令和7年度の取組み(R6以前からの継続含む)	令和8年度の取組み
5 ワークライフバランスに留意し、やりがいと充実感の持てる職場づくりに努めます	職員がやりがいと充実感の持てる職場環境づくりに努めるとともに、働き方改革への取り組みを進め、職員の負担軽減を進めます	① タスクシフト、タスクシェアリングの推進 ② 医師のシフト制勤務の導入 ③ ICTの活用による職員の負担軽減 ④ 多様化する働き方に対応できる体制整備 ⑤ 男性職員の育児休業取得の促進 ⑥ 安心して働ける職場環境づくり	・時間外労働時間が多い診療科や宿日直許可が取得できない部署においてシフト制導入 ・放射線技術科、臨床検査技術科、薬剤部のシフト制（夜勤）導入 ・タスクシフトの検討・推進 R7年度：病棟薬剤業務、内視鏡業務、オペ室の器械出し ・手術室業務改善システム（オペラマスター）の活用 ◎経営コンサルによる看護業務改善支援の実施(病棟) ◎システムエンジニアの活用（院内情報の可視化に向けた取組） →病棟の空床状況、入退院予定の見える化の検討 ・人材育成やリーダーのキャリアアップ等のためのビジネスキャリアサポート研修の実施（看護部） ◎DX推進・経営情報分析室の設置 ・「現場お困りごと相談サポート」の実施 ○会議のペーパーレス化 ○スマートオリエンテーション対象部署の拡充（再掲） ○RPAによる自動化対象業務の拡充 ・AI電話による初診予約受付の開始(再掲) ・院内保育所の充実（保育料減額、終夜保育の拡充、病児保育の開始） ・職員又は職員の配偶者の出産等に伴う面談の実施（男性職員の育児休業取得の促進） R7年度（12月時点）87.5% ○子育て支援面談の拡充 2歳の子を養育する職員（会計年度任用職員を含む）の追加	◎医師の定量評価など、人事評価制度見直しに向けた試行及び検討 ◎経営コンサルによる看護業務改善支援の実施(外来) ○院内情報の可視化に向けた取組 →空床状況、入退院予定数の可視化によるベッドコントロールの効率化
6 健全経営に努め、医療ニーズに応え絶えず進化する病院を目指します	地域医療を担う県下の中核的医療機関として、将来にわたって高度で専門的な医療を提供するため、再整備を行い健全経営に努めます	① 再整備による診療機能や診療体制の充実 ② 病床再編による人員体制の拡充 ③ DX推進による医療の質の向上及び診療体制の最適化 ④ 新たな診療報酬加算の積極的な取得による収益の確保 ⑤ 運営経費や設備投資の適正化と徹底的なコストの削減 ⑥ 経常収支比率及び医業収支比率の100%超えの達成	・入札不調の原因等を踏まえ再整備計画の見直しを検討 ・県内主要病院の患者推移等を改めて調査・分析 ◎DX推進・経営情報分析室の設置（再掲） ○経営コンサルと連携した経営改善への取組み ◎経営課題ごとのワーキンググループの設置 ◎ベッドコントロール強化の運用試行（一部病棟での試行） ◎各部門の次年度目標の設定 ◎階層・職種を超えた対話を通じた部門連係・部下育成コーチングの実施(再掲) ◎システムエンジニアの活用(再掲) ・施設基準管理システムの本格稼働 ⇒クラウド上でのデータ管理と他病院との比較による届出漏れの防止 ・再製造単回使用医療機器（R-SUD）導入の推進 ・診療材料試用にかかる体制の見直し（申請書提出の義務化） ・後発医薬品（ジェネリック医薬品）導入の推進 ・薬品価格交渉業務の委託	◎病院事業の組織体制の強化を目的に、事業管理者とは別に一般職の病院長を配置 ◎令和8年度診療報酬改定への対応 ◎各種費用のベンチマーク比較等による適正化 ◎病棟構成・病床配分の再編検討(HCUの新設、新生児病床見直し等) ○ベッドコントロール強化の運用拡大 (7年度：1病棟における試行⇒他病棟へ展開) ◎「人事戦略WG」の運用(再掲) ◎経営層による目標管理(病院全体、各診療科、部門別) ○組織の求心力向上を目的とした組織開発支援(再掲) ・再整備計画の見直し着手（当院の現状分析、必要な機能の精査等）